



学校だより

平成29年11月1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.475

けんけい げんけい 顕型と原型

副校長 横尾 康幸

皆さんは、「顕型」と「原型」という言葉を耳にしたことがありますか。

顕型とは、「表面に出ている様子」、「目に見える様子」を意味します。一方、原型は、「もとの原因」をさす言葉として使われます。

風邪に例えるなら、顕型は目に見える様子ですから、「顔が赤い」、「咳をしている」等のことをさします。一方、原型は、「体がウイルスに感染されている」ということになります。顕型は見えるので気付きやすいのですが、原型は自分から意識していかないと見過ごしてしまいがちです。

子育てをしていると、その時々でいろいろと気になることができます。そんな時、先の二つの言葉を思い出してみると、よりよい対処法を見付けるヒントになるのではないかと思います。

「忘れ物が多い」ということを例にしてみましょう。言うまでもなく、これは顕型です。その対処としては、「声をかける」、「連絡帳を確認させる」等のことが思い浮かびます。差し当たってやらなくてはならないことですから、これらの方法は間違っていないかもしれません。しかし、「親が注意を怠ると、また忘れ物をしてしまう。」といったように、その場かぎりのもので終わってしまう可能性もあります。

ここでポイントとなるのが原型にも目を向けるということです。つまり、忘れ物をしてしまう根本の原因を探り、対処法を考えるのです。すると、「年齢なりの基本的な生活習慣がまだ身に付いていない」、「なぜ忘れ物をしたらいけないのか、その理由が分かっていない」等のことが分かってくるかもしれません。原型への対処は、顕型へのそれより時間も手間もかかりそうです。しかし、根本原因への対処ですから持続的な効果が期待できますし、きっと、忘れ物に限らず、他のことにもよい影響がでてくることでしょう。

両者のバランスを上手に考え、根気強く取り組めていけたらと思います。

